

活動成果報告書

令和5年度（第27回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 性感染症を知って、自分と大切な人を守りたい！	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 茨城県中央保健所 代表者：関水 仁美	
勤務先：茨城県中央保健所 所 属：保健指導課 所在地：〒310-0852 茨城県水戸市笠原町993-2 TEL：029-241-0100 FAX：029-241-0571	

◇活動方針

本保健所では性感染症であるエイズ・梅毒・クラミジア・肝炎に関する検査を無料・匿名で実施している。しかしながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、ここ数年は通常週1回実施している検査を中止または月1回の実施に制限していた。令和5年4月より通常の検査体制に戻ったものの、予約枠がすべて埋まらない週もあり、検査の更なる周知が必要であった。

また、性感染症は、主な感染経路が性行為のため、相談しにくく、相談場所もわからない傾向があるため、保健所が性感染症の相談機関であるということも併せて周知したかった。性感染症は、10～20代の若者に感染が拡大しているため、性行動の活発な若者に情報が届くような発信方法を考えることが重要であると考えた。

また、本保健所でエイズ専用電話を設置し性感染症の相談を受ける中で、インターネット上の不正確な情報を信じている方が一定数存在するため、保健所として正しい知識の普及が求められている。

以上のことから性感染症検査を受ける方やインターネットで性感染症の情報を得る方は若年層が多いため、新たに動画を作成し、県民に広く周知することで、性感染症検査や性感染症予防の啓発を図ることとした。

◇活動内容とその成果

(1) 背景

全国の保健所で1987年からHIV感染症の検査が始まった経緯は、当時海外で注目されていたHIVの日本への感染拡大を防ぐためであった。茨城県では、性器クラミジア感染症及び梅毒の検査も同時に実施している。

HIV感染者とAIDS患者の新規報告数は近年減少傾向であるが、AIDS発症後の報告が3割を占め早期発見のための検査が重要と思われる。性器クラミジア感染症は、全性感染症の中で報告数が最も多く、さらに近年は増加傾向である。梅毒患者数は2020年頃から急増している。

活動成果報告書

若者のインフラとも言われているインターネットの普及率は83.4%^{*1}、うちYouTubeの利用者率は88.2%^{*2}にも及んでいる。さらにインターネット利用時間は令和2年からテレビ視聴時間を超えている^{*3}こと、スマートフォンの普及率が88.6%^{*4}であるという現状などの社会的背景もあり、動画配信型SNSであるYouTubeを活用し啓発することは、一定程度の効果が期待できると思われた。

(2) 方法

本動画を視聴するの主な対象者は本保健所で性感染症検査を受ける方及び一般県民とした。動画はパワーポイントで、HIV・性器クラミジア感染症・梅毒についての3本を作成した。イラストやアニメーションを使用し、ナレーションについては、専門用語を使用せず、一般の方にも理解しやすい言葉を使用した。内容は、症状、感染経路、治療方法、予防方法とし、本保健所の性感染症検査の実施日や予約方法なども入れ、予約の際の連絡先などの説明を入れることで、検査受付の際の説明の効率化を図ることを狙った。動画はYouTubeへ投稿するとともに、中央保健所のホームページの性感染症のページへも掲載した。

(3) 工夫した点

動画作成・編集の過程において課の職員4名でワーキングチームを立ち上げ、所内の若手職員からも意見を聴取することで、内容のわかりやすさを追求した。動画はスマートフォンなどでスキ間時間に、忙しい人も飽きずに視聴できるよう3分以内の短いものとした。

又一般の方がYouTubeで動画を視聴する際、表紙となる画像から選択することが多いため、興味をひきやすいものとした。

(4) 結果

完成した動画はYouTubeに投稿し、本保健所のホームページ上に掲載した。また、いばらき予防医学プラザの業績発表会で発表したり、保健所主催の研修会等で幅広く周知を行っている。

1月になってから、性感染症の予約や相談件数が増えており、動画配信の効果があつたと考えられる。3本の動画は、それぞれが視聴数を増やしており、視聴回数は、エイズ 127回、梅毒 224回、クラミジア 120回（1月30日時点）であった。

(5) 考察

性感染症の動画は数多く投稿されているが、行政が作成している動画は少なく、正しい情報を配信する機会として重要である。

インターネットが普及している中、性感染症の情報発信において、動画配信型SNSである、YouTubeを通じて、知識の普及啓発を行うことは有効であると思われる。動画は時間や場所に制限されずに視聴できるため、一般の方、特に性行動の活発な若年層へのアプローチの手段としては有用だと思われる。

また梅毒の動画の視聴回数が多いのは、県民の関心の高さが反映しているものと思われる。今後も動画への反応を見ながらニーズを把握したうえで評価を行い、次年度以降の改善や提案を目指していきたい。

活動成果報告書

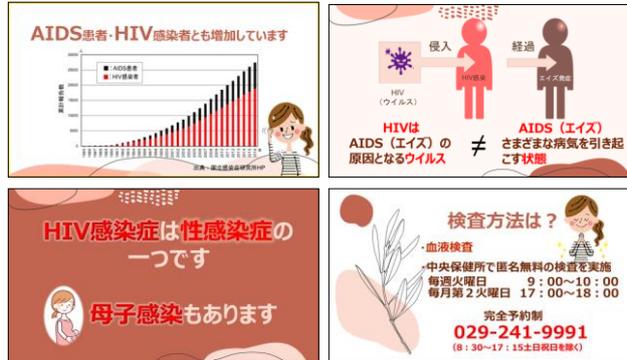
(6) 完成した動画

HIV 感染症動画

表紙



動画の画像の一部



QR コード



梅毒動画

表紙



性器クラミジア感染症動画

表紙



◇今後の計画

関係機関との研修会や会議などで照会したり他の SNS も活用するなど、積極的に PR していきたい。まずは、茨城県保健医療部の X にも掲載依頼などを行い、視聴回数の増加をめざし、知識の普及・啓発をしていきたい。

※ 1～4 総務省 「通信利用動向調査」